

オンラインシラバス 高校1年生 本科

現代の国語	-----	2
言語文化	-----	3
歴史総合	-----	4
数学Ⅰ	-----	5
数学A	-----	6
物理基礎	-----	7
化学基礎	-----	8
生物基礎	-----	9
英語コミュニケーションⅠ	-----	10
IE Writing	-----	11
論理・表現Ⅰ	-----	12

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	現代の国語	本科	3	沖野・小野寺

到達目標

- ①現代思想を理解し、その実践として諸現象を思想からのアプローチによって構造的に理解する力を養う。
- ②文章を多角的に捉えたうえで自分の意見を構築する力を養う。
- ③表現の機微を敏感に捉える力を育成する。
- ④要旨や主題を捉え、それに対する自分の意見を持つ訓練を通じて、論文を書く素養を身につける。

授業の進め方・学習方法

解説と読解を中心に進め、適宜問題演習を行うことで理解・考察を深める。
現代文学習における読解力、理解力、知識力をバランスよく鍛えることを意識して授業に臨む。

授業スケジュール

1学期	1. 言葉に残す「読書は必要か？」文章Ⅰ大学生の投稿・文章Ⅱ「あなたの世界を変えるかも」稲村弘 6. 論理を組み立てる「羅生門」芥川龍之介 演習教材
1学期中間試験	
1学期	2. 筋道をつかむ「ほどほどのデザイン」佐藤卓 筋道をつかむ「言葉の力」大岡信
1学期期末試験	
2学期	3. 視点を変える「星の目で見る」阿部雅世 4. 他者と向き合う「神様」川上弘美
2学期中間試験	
2学期	5. 問いを立てる「サイボーグとクローン人間」山崎正和 問いを立てる「問いの立て方とオリジナリティ」上野千鶴子 演習教材
2学期期末試験	
3学期	10. 展望を描く「夢十夜」夏目漱石 8. 常識を問い直す「AIの判断」船木亨 参考「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」松田雄馬
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	平常点は、漢字小テストや語句のテスト、提出物などで算出する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
新『現代の国語』	桐原書店	
『入試漢字コア2800』	桐原書店	
『現代文キーワード読解』	Z会	

担当者からのアドバイス

自分の力で文章を読み解き、文章に対する自分の意見を構築することを目標として行います。
どんな文章と対峙しても、同じ方法で文章を読み解き、自分のスタンスを決めることができる力を育成していきます。
受動的な受け方ではなく、能動的に吸収しようと努める姿勢を求めます。一緒に頑張りましょう。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
国語	言語文化	本科	3	遠藤・小野寺・宮田

到達目標
①大学入試を見据えながら、それぞれの志望校に必要な知識や読解力を習得する。 ②古典文学作品を通し、日本文学や文化に対する幅広い教養を身につける。

授業の進め方・学習方法
予習として単語や文法事項を調べ、現代語訳を作成してください。わからなかった部分を解決するという姿勢で授業に臨みましょう。 授業中は「古文単語315」「体系古典文法」「漢文必携」を参照しながら進めるので、必ず手元に置いてください。

授業スケジュール	
1学期	古文テキスト『源氏物語』『桐壺』前編 漢文テキスト『史記』『鴻門之会』前編
1学期中間試験	
1学期	古文テキスト『源氏物語』『桐壺』後編、「若紫」前編 漢文テキスト『史記』『鴻門之会』後編
1学期期末試験	
2学期	古文テキスト『源氏物語』『若紫』後編 漢文テキスト『史記』『四面楚歌歌す』
2学期中間試験	
2学期	古文テキスト『源氏物語』『紫の上の死』、『蜻蛉日記』『町の小路の女』『鷹』 漢文テキスト 唐詩「静夜思」「江雪」「山行」「送元二使安西」「涼州詞」「春望」「香炉峰下新卜山居……」
2学期期末試験	
3学期	古文テキスト『大鏡』『道真左遷』 漢文テキスト『孟子』『不忍人之心』、『荀子』『性悪』
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の結果を中心に、授業への取り組みや小テスト・課題テストの結果などを加味して絶対評価で行う。
レポート		
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材		
書名	出版社	備考
古典探究 古文編	大修館書店	
古典探究 漢文編	大修館書店	
体系古典文法	数研出版	
重要古文単語315	桐原書店	
漢文必携	桐原書店	

担当者からのアドバイス
知識・文法だけにとらわれずに多角的な視野で文学を楽しんで欲しいと思います。 高等教育を受けたと言えるだけの教養を身につけて社会に出ていけるようにしましょう。 また分からないことはすぐに質問して解決するいい習慣を身につけてください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
地理歴史	歴史総合	本科	2	表

到達目標
 新たに始まった必修科目「歴史総合」の興味を喚起し、学問的関心の裾野を広げるとともに、受験科目としての「歴史総合」さらには「日本史探究」・「世界史探究」も視野に入れ、2年次・3年次に向けた導入も図っていく。取り扱う分野は近現代史を中心とし、学習に際しては史実の理解・整理だけでなく中長期的な影響などの考察も取り入れることで、現代の世界をとりまく協調や対立、格差や偏見といった諸問題の背景についての歴史的思考力を養成する。

授業の進め方・学習方法
 「歴史総合」は、日本史・世界史というくりを取り払い、1つの事象が起こった背景には複雑な国際関係が存在するというを理解できるように授業展開していく。定期考査では資料問題・地図問題・論述問題などを積極的に取り入れていく。

授業スケジュール	
1学期	第2部 近代化と私たち 2章 欧米諸国における近代化 イギリスの革命とアメリカの独立・フランス革命・フランス革命の影響と国民意識の芽生え 産業革命で変わる社会・イギリスの繁栄と国際分業体制 3章 近代化の進展と国民国家形成 1848年・イタリアドイツの統一とロシアの近代化・アメリカの拡大と第2次産業革命・帝国主義と世界の一体化 1学期中間試験
1学期	第2部 近代化と私たち 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 「西洋の衝撃」と西アジアの変化・南東南アジアの植民地化・ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 黒船の来航と日本の対応・新体制の模索と江戸幕府の滅亡 5章 近代化が進む日本と東アジア 新政府の誕生・近代国家を目指す日本・日本と清の近代化と日清戦争・列強の中国進出と日露戦争 日露戦争が与えた影響 1学期期末試験
2学期	第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と日本の対応 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張・総力戦となった第一次世界大戦・ロシア革命と大戦の終結 2章 国際協調と大衆社会の広がり ヴェルサイユ体制の成立・東アジアの民族自決の行方・中東インドの民族自決の影響 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加・大衆社会の出現とアメリカの繁栄・日本における大衆社会の形成 2学期中間試験
2学期	第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3章 日本の行方と第二次世界大戦 世界恐慌が与えた影響・ファシズムの台頭と拡大・政党政治の断絶と満洲事変・日中戦争の始まり 第二次世界大戦の展開・戦局の悪化と被害の拡大・第二次世界大戦の終結とその惨禍 4章 再出発する世界と日本 戦後の新たな国際秩序・冷戦の始まり・日本撤退後の東アジア・日本の改革と独立の回復 2学期期末試験
3学期	第4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 アメリカソ連の緊張と緩和・冷戦下における日本の復興・第三勢力の形成と脱植民地化 中東戦争とパレスチナ問題 2章 多極化する世界 揺らぐアメリカと先進各国の変化・「経済大国」日本の模索・経済発展に取り組むアジア南米諸国 イスラーム復興と冷戦への影響 3章 グローバル化のなかの世界と日本 冷戦の終結と変わる世界構造・冷戦の終結が与えた世界への影響・超大国アメリカと中東情勢 国際環境の変化と日本・グローバル化による国際社会の変容 学年末試験

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	・中間、期末試験(1・2学期)、学年末試験(3学期) ・課題レポート、ノート提出 ※授業姿勢など
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材		
書名	出版社	備考
明解 歴史総合	帝国書院	
明解 歴史総合 ノート	帝国書院	
明解 歴史総合図説 シンフォニア	帝国書院	

担当者からのアドバイス
 近代以降の歴史は、私たちが生きる現代社会の形成に今なお多大な影響を与え続けています。近代史は、単に受験科目として学ぶものではなく、今を生きる社会の一員として身につけなければいけない一般常識と言っても過言ではありません。その教養を主体的に学び取っていくためにも能動的に授業に取り組んでくれることを期待しています。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学 I	本科	4時間	田中・小沢

到達目標

数学により表現された言語や事柄を正しく認識し、それをもとに思考する力、適切に表現する力を育てる。
また、このことの前提となる基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を希求し、主体的に取り組む姿勢を身につける。

授業の進め方・学習方法

基礎の確認・応用にかかわる手法については教科書を活用して行う。
また、演習の時間を確保し、この学習方法を確立するための取り組みを行っていく。
その中で生徒同士で自由に議論を行い、問題解決に対するアプローチや情報共有に充てることで、理解を深める機会を設けることもある。

授業スケジュール

1学期	数学 II 第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式 第2節 式と証明 第3節 高次方程式
1学期	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域 軌跡
1学期期末試験	
2学期	第2章 図形と方程式 第3節 軌跡と領域 領域 第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数 第2節 三角関数の加法定理
2学期中間試験	
2学期	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数
2学期期末試験	
3学期	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用 第3節 積分
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の割合を80% 課題テスト・提出物・授業態度を平常点に換算して20% 合わせて100%として評価する
レポート	0	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
深進 数学 II	啓林館	教科書
Grasp 数学 II 問題集	啓林館	問題集
Focus Gold 数学 II	啓林館	参考書

担当者からのアドバイス

数学 I で学んだことをより拡張し、より数学を便利に扱っていくために、少しずつ抽象的なことに触れていきます。
定義から数学を組み立てていく流れを学ぶ中で、その過程を大切にしてください。過程を大切にする目線は「解放の流れをイメージする」力へとつながり、徐々に「数学が得意な人の目線」を手に入れることにつながります。
新たな発想に出会うこともあるでしょう。一つ一つの出会いを大切に、謙虚に身に付けていきましょう。頑張ろう！

教科	科目	コース	授業時間	担当者
数学	数学A	本科	2	坂内

到達目標
"数学の解法を美しいと思える感性を養い、正しく思考し、それを的確に表現する力を身に付ける。 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解することを前提に、主体的に授業に参加する態度を養成する。"

授業の進め方・学習方法
講義と演習の時間をとり、学習の方法を身に着けていく。 また、同じ講義を受ける仲間と問題に対するアプローチや理解を深めていく。

授業スケジュール	
1学期	教科書数学B 第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列 第2節 いろいろな数列
1学期中間試験	
1学期	第3節 漸化式と数学的帰納法
1学期期末試験	
2学期	教科書数学C 第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと図形
2学期中間試験	
2学期	第3節 空間のベクトル
2学期期末試験	
3学期	教科書数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 正規分布 第3節 区間推定と仮説検定
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の割合を80% 課題テスト・提出物・授業態度を平常点に換算して20% 合わせて100%として評価する
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材		
書名	出版社	備考
深進 数学Ⅱ・B・C	啓林館	
Grasp 数学Ⅱ+B	啓林館	
Grasp 数学C	啓林館	
Forcus Gold数学Ⅱ+B	啓林館	
Forcus Gold数学C	啓林館	

担当者からのアドバイス
高校の数学は学習する内容が中学数学よりも断然多くなります。その分授業進度も早くなります。 日頃よりの復習などをしっかりと行い、頑張ってください。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	物理基礎	本科	2	井上・戸井田

到達目標

- ・物理を通して、帰納的・演繹的思考力を身につける。
- ・力学、熱力学、波動の基本的な原理や法則を用いて、特定の実験結果を予測したり説明できるようになる。
- ・大学入試共通テストの物理基礎の問題を自力で解けるようになる。

授業の進め方・学習方法

- ・物理基礎では「力学」、「熱力学」、「波動」「電磁気」の基礎について学びます。
- ・基本的には、
 - ①板書による講義により、物理理論の重要事項を伝えます。適宜、法則を発見するに至る帰納的思考や演繹的思考について伝えます。
 - ②問題集を用いて、物理理論の重要事項を使う練習をすることによって、思考力を養います。
- 適宜、
 - ③演示実験により、物理理論と現実との関わりについて説明します。

※ 下記の授業スケジュールは進度によって変更する可能性があります。

授業スケジュール

1学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則
1学期中間試験	
1学期	第1編 運動とエネルギー 第3章 仕事と力学的エネルギー 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー
1学期期末試験	
2学期	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音
2学期中間試験	
2学期	第4編 電気 第1章 物質と電気 第2章 磁場と交流 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用
2学期期末試験	
3学期	大学入学共通テストによる問題演習
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	平常点は、授業態度、課題の提出状況などから算出する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
改訂版 物理基礎	数研出版	ISBN 978-4-410-81222-4
センサー物理基礎・物理 4th Edition	啓林館	

担当者からのアドバイス

様々な科学者が、身の回りの科学をいかに表現するか、絵をかいたり、実験をしてみたり、計算してみたり、と試行錯誤して今の科学技術は生まれました。"物理"では、数学を道具にして自然科学の法則を表したり、その現象をひも解いたりしていきます。一見複雑そうに見える私たちの身の回りにある自然現象がシンプルな数式で表される、その美しさに是非触れてほしいと思います。この過程で、物事を組み立てたり、思考を広げていくことの楽しさを見出すことができたとき、"物理"を超えた様々な分野で活用できる視野が身に着くと思います。授業の中だけでなく、日ごろから頭の中で考えたアイデアをノートに書き起こしたり、思考の筋道を書き残すことを大切にしてください。一緒に頑張っていきましょう！

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	化学基礎	本科	2	本橋・田仲

到達目標
化学の基本的な概念を理解し、反応や法則を暗記に留まることなく考察する能力を養う。また、学習内容を日常生活や社会と関連付け、科学的に探究する能力を養う。

授業の進め方・学習方法
教科書の内容をベースとし、一部「化学」の内容も先取りして扱う。 問題集を用いて適宜復習を行うと良い。 必要に応じて小テストを実施する。

授業スケジュール	
1学期	【第1部 物質の構成】 1章 化学と物質 2章 物質の構成粒子
1学期中間試験	
1学期	【第2部 物質の変化】 1章 物質量と化学式
1学期期末試験	
2学期	【第1部 物質の変化】 3章 化学結合 【第2部 物質の変化】 2章 酸と塩基
2学期中間試験	
2学期	【第2部 物質の変化】 2章 酸と塩基 3章 酸化還元反応
2学期期末試験	
3学期	【第2部 物質の変化】 3章 酸化還元反応
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の結果を主として、授業・課題の取り組みや小テスト結果を加味する。
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材		
書名	出版社	備考
i版 化学基礎	啓林館	
センサー 化学基礎+化学	啓林館	問題集 家庭学習にて使用。

担当者からのアドバイス
良く化学は暗記科目だといわれがちですが、これは半分正解で半分不正解だと思っています。確かに覚えるしかないものもありますが、その知識は日常へと利用できるよなったり、逆に経験から予測することができるようなものもあります。ただ学ぶだけではなく、「どう利用できるか？」という所まで知ること、化学って面白い！と感じられるようになってくれると良いなと思います。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
理科	生物基礎	本科	2	上原・西山

到達目標
 中学理科で身につけた基本知識を軸に現代の科学・技術に興味関心を強く持つための科学リテラシーを習得する。また、高校2年時の物理・生物の選択の前に各分野の基本的な知識を身につけ、大学受験に向けた下準備を行う。

授業の進め方・学習方法
 大学入試を意識した基礎学力の定着を目的とした内容を扱います。
 授業では、プリント・教科書を使用して進めていきます。
 問題演習に自主的に取り組むことで、高2高3時に大きなアドバンテージになるので、日々の学習計画を明確にし、取り組んでください。

授業スケジュール	
1学期	第1部 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー
1学期中間試験	
1学期	第1部 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 ※一部【生物】第1部 生物の進化 第4章 生物の系統を含む
1学期期末試験	
2学期	第2部 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報を担う物質 2節 遺伝情報とタンパク質合成
2学期中間試験	
2学期	第3部 ヒトの体の調節 1章 神経系と内分泌系による調節 2章 免疫
2学期期末試験	
3学期	第4部 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 2章 生態系とその保全
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験の結果を中心に、レポート、授業への取り組みなどを総合的に評価します。
レポート	0～20	
小テストなど	0～20	
授業での取り組み	0～20	

教科書・教材		
書名	出版社	備考
生物基礎 1版	啓林館	
センサー-生物基礎+生物	啓林館	

担当者からのアドバイス
 知識の詰め込みだけでなく、原理現象を理解して進めていきましょう。
 自分で考えたこと、理解したことを正確に言語化していけるように進めていきたいと思います。楽しい生物の世界を堪能しましょう！

教科	科目	コース	授業時間	担当者
外国語	英コミュ I	本科	3	岩本

到達目標
大学入試対策として、内容や構造を理解しながら英語の長文を読む能力を身につける。 また、積極的に様々な話題の文章に触れ、教養を身につける。

授業の進め方・学習方法
ELEMENTについては、音読や解説などを通して文章の流れや内容をつかむことを重視する。 Cutting Edge Greenについては、問題演習を中心に、文章を精読することを重視する。 その他、必要に応じて過去問演習も取り入れる。

授業スケジュール	
1学期	ELEMENT English Communication I Lesson 1 Cutting Edge Green Chapter 1, 4
1学期中間試験	
1学期	ELEMENT English Communication I Lesson 3 Cutting Edge Green Chapter 6, 7
1学期期末試験	
2学期	ELEMENT English Communication I Lesson 4 Cutting Edge Green Chapter 9, 12
2学期中間試験	
2学期	ELEMENT English Communication I Lesson 7 Cutting Edge Green Chapter 13, 15
2学期期末試験	
3学期	ELEMENT English Communication I Lesson9 Cutting Edge Green Chapter 16, 18
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	平常点は朝テストおよび授業内テストの成績、提出物などをもとに算出します。
レポート	0~20	
小テストなど		
授業での取り組み		

教科書・教材		
書名	出版社	備考
ELEMENT English Communication I	啓林館	
ELEMENT English Communication I WORKBOOK ADVANCED	啓林館	自宅学習用
ユメリス1	アルク	
キクタン	アルク	朝テストで使用
Vintage 4th Edition	桐原書店	朝テストで使用／定期試験範囲

担当者からのアドバイス
高校では英文の内容が身近なものからより社会的で多様な話題を含むものになっていきます。それらの英文を読みこなすには英語の知識だけでなく各話題に関する背景知識も重要になっていきます。ぜひ、日常生活の中でも様々なことにアンテナを張り巡らせてください。 また、英語の学習方法は目で見えて覚える、手で書いて覚える、耳で聞いて覚える、声に出して覚えるなど、たくさんあります。いろいろ試してみながら、この1年で自分に合う学習方法を見つけてほしいと思います。

教科	科目	コース	授業時間	担当者
外国語	英コミュ I	本科	1	パーカー

到達目標
The aim of this course is to improve all areas of English writing for H-1 Honka students. We look at samples of different types of writing and learn how best to prepare and write essays. This course will give students a solid foundation and allow them to have more confidence using English in an academic setting.

授業の進め方・学習方法
Students will use the textbook Write Away, Right Away as a base, they will also use a variety of supplementary materials and other resources. Students will also be encouraged to keep a journal and do free-writing each class. At the end of each term students will do timed essays under exam conditions.

授業スケジュール	
1学期	Journal writing, freewriting, and composition format. We will be looking at: simple present tense; subject-verb agreement; using because; combining sentences with and; punctuation: using a comma before and. The first essay topic will be a personal introduction, followed by introducing someone else.
2学期	In the second term, students will continue writing based on our textbook. They will continue to do more complete essays based on a personal experience they have had in their lives. They will follow this up by comparing and contrasting two things, followed by writing a persuasive essay looking at the advantages and disadvantages of something. Topics: Writing a narrative; organizing information in time order; revising: adding details to make it more interesting, checking verb tense, adding adverbs, checking for usage of and, but, so, and because, and rewriting based on peer feedback. Comparing and contrasting; writing questions with comparative forms; brainstorming and organizing information using a list; writing topic sentences; writing an outline; writing an introduction; writing a conclusion; revising: checking for usage of transitional phrases, checking spelling, checking comparative adjective forms, and rewriting based on peer feedback
3学期	In the final term students will continue to read and practice writing different types of essays. They will write a final essay in the manner of a university entrance exam based on a prompt given in class. Focus is given to grammar, punctuation, paragraphs, spelling and their original ideas.
学年末試験	

成績評価方法		
種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	Students will be scored on their essays and awarded points for homework completed on time and to high quality.
レポート	20	
小テストなど		
授業での取り組み		

教科書・教材		
書名	出版社	備考
Write Away, Right Away: Second Edition (David Martin)	EFL Press	

担当者からのアドバイス
Students should bring their textbooks and notebooks or writing paper to class. They should use their time wisely and try to ask questions if they don't understand. The best way to improve is to read a lot and so students should also read the textbook and as much written English as they can, including news websites, graded readers, etc. Students will be encouraged to keep a journal and write tips to improve their own writing as well as give constructive feedback to other students in the class.

教科	科目	コース	授業時間	担当者
英語	論理・表現Ⅰ	本科	3	中山

到達目標

生徒が主体的に学習に取り組むことで、4技能の基礎を築く。Listening: 英語を聞きながら、その概要を把握することができるようになる。リスニングの中で、最も大事な箇所をつかむことができるようになる。Speaking: 正しい発音で、適宜、抑揚をつけながら、相手に伝わる英語を話すことができるようになる。Reading: 英文を読みながらKey sentences (words)を見つけることができるようになる。Writing: Topicに対し、主題、本題、結論を書くことができるようになる。論理的な英文を書く習慣を身に着ける。

授業の進め方・学習方法

① Introduction: 音声を聞いてディクテーションを行い、「英語の耳」を養う。キーワードをメモし、内容把握のために必要な情報を的確に掴む。② Short Lecture & Practice Work: 文法解説を通じて、事項の概要を深く把握する。その後、Workbookに個人で取り組み、文法事項の理解を図る。演習後は全体での確認・答え合わせを行い、知識の正確な定着を目指す。③ Practice: 授業内では、基本事項を応用した発展課題に挑戦する。また、家庭学習においては Vintage や Ultimate を活用し、さらなる演習を重ねることで応用力を磨く。

授業スケジュール

1学期	教科書 Vision Quest Ⅰ : Lesson 1, 2 Workbook: Lesson 1, 2 Vintage: Lesson 1, 2 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 1, 2 補助教材
1学期中間試験	
1学期	教科書 Vision Quest Ⅰ : Lesson 3, 4 Workbook: Lesson 3, 4 Vintage: Lesson 3, 4 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 3, 4 補助教材
1学期期末試験	
2学期	教科書 Vision Quest Ⅰ : Lesson 5, 6 Workbook: Lesson 5, 6 Vintage: Lesson 5, 6 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 5, 6 補助教材
2学期中間試験	
2学期	教科書 Vision Quest Ⅰ : Lesson 7, 8 Workbook: Lesson 7, 8 Vintage: Lesson 7, 8 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 7, 8 補助教材
2学期期末試験	
3学期	教科書 Vision Quest Ⅰ : Lesson 9, 10 Workbook: Lesson 9, 10 Vintage: Lesson 9, 10 文法に関連する問題 Ultimate 教科書Lesson 9, 10 補助教材
学年末試験	

成績評価方法

種別	割合(%)	評価基準など
定期試験	80	定期試験(中間&期末)80% 平常点(H.W.、授業内小テスト等)20%
レポート	0~20	
小テストなど	0~20	
授業での取り組み	0~20	

教科書・教材

書名	出版社	備考
Advanced Vision Quest English and Expression Ⅰ	啓林館	
Advanced Vision Quest Ⅰ WORKBOOK	啓林館	
Vintage	いいずな書店	

参考書

書名	著者	出版社	備考
Vision Quest 総合英語 Ultimate	野村恵造	啓林館	

担当者からのアドバイス

この科目は「正しい文法で英語を表現する」ことが重要です。授業では、定期的に文法小テストを行います。そのため、単元ごとの英文法の解説をしっかりと理解し、問題を解く力を身につけていきましょう。普段から英字新聞やニュースなどにも関心を向けることで生きた英語力が身につけていきます。授業だけでなく、家庭学習も含めた学びの継続が確かな英語力の定着に繋がります。1年間、一緒に頑張りましょう。